1－2　光源の特性に関する用語

●ランプ効率　lm ／W（ルーメン／ワット）

ランプの全光束をその消費電力（ランプ電力）で割った値。この数値が高いほど、効率の良いランプです。

● 1/2 ビーム角

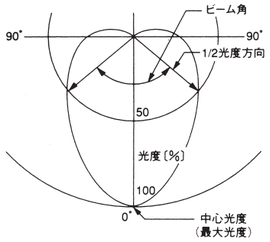
集光の程度を表すのに用いる定義で、中心光度（あるいは最大光度）の 1/2 の光度（あるいは 1/10 の光度）になる左右 2 点と光源の中心を結ぶ角度のこと。

●ビーム光束　lm（ルーメン）

ビーム角内の光束のこと。

●配光曲線

光源からでている光がどの方向にどれだけの強さで出ているかを表したもの。



●K（ケルビン）

光源には、白熱ランプのように赤っぽいものから、水銀ランプのように青味がかかったランプまであります。このように光源には、固有の光色がありますが、この光色を数字で表したものが、色温度です。色温度の単位はK（ケルビン）で、赤みを帯びた光色ほど色温度が低く、青みを帯びた光色ほど色温度が高くなります。黒体を熱した時の色の変化で、その時の温度（絶対温度：K）が、色温度とされています。

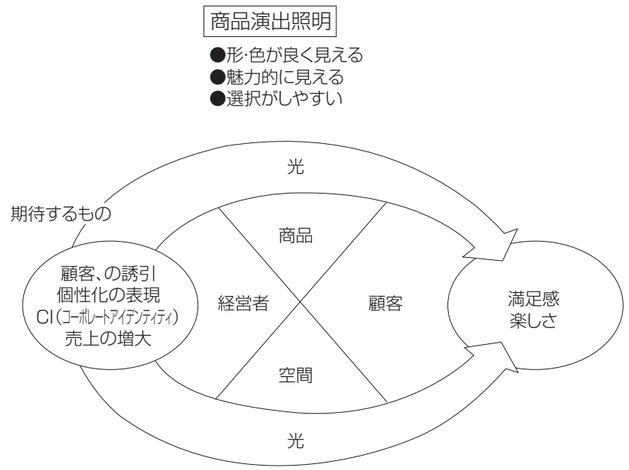
●演色性　Ra

一般的に演色性というと、ものが美しく見えるか見えないかというときに使われますが、本来は、平均演色評価数（Ra）のことをいい、物の色が自然光にどの程度近いかを数量的に表したものです。測定方法は、定められた 8 種類の試験色を測定する光源で見た場合と、基準光源で見た場合との色ずれの度合いを測定します。この8種類の色ずれの平均値を、平均演色評価数（Ra）といいます。この場合、評価したい光源と同じ色温度の基準光で比較します。異なった色温度の光源で、演色性を比較する方法はまだありません。測定した光源が基準光と同じならば、Ra 100。色ずれが大きくなれば Ra の値は小さくなります。100 に近いほど、自然光に近い、つまり演色性が高いとなります。この他、木の葉、肌など特定な物に対する演色性を見るために、さらに7種類の試験色が定められています。なぜ白熱ランプは全てが Ra 100 なのに、蛍光灯や放電灯に Ra 100 がないのかというと、白熱ランプは、発光する原理が熱放射（太陽と同じ）なのに対し、それ以外の光源の発光は、放電やルミネセンスにより、原理が異なるため、Ra は最高でも 99 までにしかならないからです。通常 Ra 80 をこえるランプを高演色ランプと呼びます。

1－3　照明手法に関する用語

● VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）

一般的に考えると、商品を視覚的にかつ美しい陳列で見せるテクニックですが、照明でいう VMD は単に商品を見せるのみならず、空間演出も同じレベルで考えないといけません。照明の VMD は、特にまず空間を美しく見せ（コンセプトを表現し）、客を店内に誘い込み、さらに商品を美しく見せる手法のことをいいます。



●タスク＆アンビエント照明

空間を均一に照明せずに、環境演出照明と商品演出照明を分けて計画することで、より一層効率良く、空間の特徴と、商品の演出を両立する照明手法です。

●アイ・ポイント

照明計画を立案する上で、人の視線を考えながら計画することが重要で、たとえば近景・中景・遠景というように距離を主体に考える場合と、シークエンス・シーナリーといった視線の動きを考慮する場合があります。

● P.S.A.L.I（プサリ）

プサリ照明とは、事務所空間などにおいて照明環境の質的向上を目的として、昼光を取り入れた常設補助照明のことをいいます。

近代のビルは天井の高さが低く、しかも冷暖房の諸設備の関係で、奥行の深い部屋が作られる傾向にあり、窓からの昼光は部屋の奥まで到達しない場合が多いため、室内照度の不均一はまぬがれません。

プサリは、これらの室内照度を均一化して質の向上を計り、照度の均斉度をよくするように昼間は室内の中央部から奥にかけて照明を行うようにし、夕方から夜間にかけては窓側の照明を点灯することで、終日室内の輝度バランスを保つようにする照明技法です。

ライティン□ コー□ ィネーター 第3版.indb 278-279　15/03/13 17:38